

- 日本では、第5期科学技術基本計画(H28.1)で示したSociety 5.0の基盤となる「データ連携基盤」を構築し、あらゆる分野のデータの連携により新たな価値を創出。
- 米国では、グーグル・アマゾン等の巨大プラットフォームが、コンシューマ系ビジネス(BtoC)での強みを活かし、インダストリー系ビジネス(BtoB)へ展開。
- 欧州では、Industry 4.0を基軸として、ものづくりを核としたサプライチェーン全体をつなぐプラットフォームにより、革新的サービス・製品の創出。
- **日米欧のグローバル連携により、世界経済、世界的課題の解決(SDGs)への貢献を目指す。CSTI/SIPとWEFプロジェクト連携が、その中で重要な役割を担う。**



欧州 Industry 4.0

ドイツを中心としたものづくりを核に、あらゆる産業への展開

Ex; 企業の枠を超えたプラットフォームにより、中小企業も参画できるシステム(テストベッド)構築。

米国 巨大プラットフォーム

(グーグル、アマゾン、アップル等)



グローバルのデータの更なる収集・蓄積・利活用によるBtoCからBtoBへ展開

Ex; スマートウォッチ等により取得した生体情報を活用し、疾病発症リスク解析等による医療費削減・健康増進。

**WEF等国際機関との
連携を通じた
グローバル連携の加速**

Society 5.0

CSTI/SIPによる官民連携プロジェクトの展開

Ex; AI、データ連携
自動運転、インフラ・防災
農業、ものづくり
健康医療 等



CSTIとWEFの今後の連携

CSTI/SIPの意義 : Society 5.0 を実現するための研究開発と国際標準化

CSTI : 総合科学技術・イノベーション会議
SIP : 戦略的イノベーション創造プログラム

WEF第4次産業革命センターの意義 : グローバルなオープンイノベーションのハブとして世界の社会基盤構築と標準化戦略企画

⇒ 両者の狙いとアプローチは合致、CSTI/SIPは国際展開をWEFセンターと連携して推進

CSTI/SIP



バイオ農業

<ICT農業のアジア展開>



インフラ維持管理

<アジアのインフラ維持管理
ビジネスチャンス>



防災・減災

<防災用ICTユニットの国
際標準化とアジア展開>



構造材料

<欧州等国际アドバイザー・
ボードの活用>

健康医療

<AI Hospital>



自動走行

<ダイナミックマップ技術の国
際標準化、日独連携>

サイバー／フィジカル 空間基盤技術

<AI・データ連携、IoT>

エネルギー・環境

<エネルギー・マネジメント>
<アンモニアサプライチェーン>

物流

<ブロックチェーン
技術の活用>

・日本の技術の世界展開、世界標準を取りに行く

・日本センターを通じてSIPとWEFのプロジェクトリーダーのマッチングイベントで連携を具体化

・グローバル標準の構築、標準戦略を示唆、日本の技術との連携

ヘルスケア

<Precision Medicine>

都市と自動走行

<ポストン実証実験>

AI

<社会変革・
規制分野での活用>

地球環境

ブロックチェーン

WEF第4次産業革命センター